

## 木の家



18.7.30

家は木の家というが、我が国では当たり前のことですが今日ではコンクリートの家や鉄骨の家ということも一般的になっています。

でも家はなんと言っても木の家が良いという。我が国では、昔から石の家や土の家などは殆ど普及しませんでした。戦後直ぐのころCB造=コンクリートブロックの家が造られたこともありました。耐震性や居住性などの難点があり広まりませんでした。

「木構造の種類」我が国の木の家は、在来工法（軸組工法）ツーバイフォー、ログハウス、パネル工法、などこれらをベースに変化した工法があります。

これらの工法の中で、一般的なのは言うまでもなく柱と梁などで構成する軸組工法が昔から展開してきている方法です。

「建物の強度」しかし、地震が発生する度に軸組工法等の耐震性が問題になり建築基準法がみなおされ強化されていますが、この基準の意味は、建物が倒壊しない程度の強度で建物が無傷ということではありません。人の生命を守るとするのが主旨とのことです。一方、パネル工法やツーバイ工法などは、国交省の幾つかの認定をとりその工法のメリットも大きいようです。

しかし、建主側にとっては、木造住宅の工法が様々な種類があるのは、多くのなかから選択できることは良いことですが、どれがよいのか迷うことにもなりかねません。

「トレンディ」公共建築物等木材利用促進法の施行がなされ、国は「3階建て以下の比較的小規模な公共建築物は、原則的にすべて木造とする」という方針を発表しました。木造建築は今までは規制が厳しかったのですが、最近では中規模の木造建築が可能になります。オフィスビルや商業建築など民間の建築物でも木材利用が始まっています。木造店舗は施工が早いという利点からも、郊外型店舗をすべて木造化させるコンビニエンスストアチェーンも現れています。北欧では、以前から高層の木造建築が造られていましたが、我が国でもいよいよその時代がやってきました。これからはRC造や鉄骨造にとって替わり木造のマンションも出来て来ることになるでしょう。

上記の法律の背景には、地球温暖化の防止や日本の森林保全の観点から、木造建築の役割が見直されるようになったことがあります。木造建築は、RC造に比べ二酸化炭素排出量を2分の1から3分の1に抑えることができると言われています。さらに木材は、地球上に木材の形である限り炭素を貯蔵しているので、二重の効果が

あります。そのため「木造の街はもう一つの森」とも言われているのです。日本での木材の利用は十分ではなく、年間生長量の4分の1しか伐採されていません。その結果、毎年8千万以上の森林蓄積が増えており、現在の日本の森林は江戸時代以降もっとも木が成長し充実している状況となっているとされています。

林野庁では、国産材を一般に広く利用できるように「木づかい運動」を行っています。「木づかい運動」は、暮らしに木材を使った製品を取り入れて、日本の森林を育てるエコ活動とのことです。

私も、以前から「木を使う」というテーマで家づくりを知人の大工さんと進めてきました。(一部NICE「ナイスビジネスレポート」のサイトより)

① ↓Nさんの家 古い家を全面リフォームする 台所のキャビネットは施主のラフスケッチから設計図を起こし大工さんの作



② ↓Iさんの家 (第5回木材活用コンクール会長賞受賞)



ベランダの手摺りに檜の板張り 檜の大黒柱に床材、天井は杉板張り



アトピーの子の部屋 (杉板と檜の床板) PC用の机と椅子をデザインし檜で大工さんの作